

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 ユーズキャリア

②事業者情報

名称：	アスクむさしうらわ保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	山岸 優子	定員(利用人数)：	77 名
所在地：	〒336-0021	さいたま市南区別所7-1-12	TEL 048-872-8107

③評価実施期間

令和5年8月1日(契約日)～令和6年1月9日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○経営母体である株式会社日本保育サービスは、全国に約300の保育園・学童クラブ・児童館を運営し、しっかりとした経営理念・グループ運営理念・保育理念育成理念・クレド等が定められています。それらが各保育園の現場職員に徹底周知されるよう教育システムが構築されています。また、働きやすい環境づくりが整備される等、組織的な管理運営体制が築かれています。

○保育サービスの質の確保の為、職員の教育体制に力を入れ、「職務要件定義」を策定し、人材育成方針を明らかにし、職員に対する期待水準を明確にすることにより、個々の職員が目標をしっかり持って業務にあたる事が出来、職員の意欲やモチベーションの高さに繋がっています。

○運営の透明性確保の為、ホームページを活用して多くの情報を発信し、わかりやすく園を紹介するシステムを構築しています。

○保育園は保育理念に基づいた明確な目標を持ち、その園目標をもとに5年間(令和2年度～6年度)の長期計画目標「地域の子育ての根拠地となる保育園(地域に溶け込み、教育・遊びを通した体験をさせ、生活力をつける)」を掲げ、中期目標として各年度の保育、子ども、保護者、地域に関する取り組みを入れています。

○職員同士の連携が園長を中心にスムーズに行われ、保護者へのきめ細かく丁寧な対応につながり、信頼を得ています。

○保育の中で食育、自然に触れさせること等が行われ、外部講師による英語やリトミック・体操・プール活動を含め、保護者から好評を得ています。園長・主任が近隣のスイミングスクールに働きかけ、保育時間内にプール活動ができるようになったことを喜ぶ保護者の多さもアンケート結果からうかがえます。

○以前は園庭の水はけが悪く、雨が降ると園庭に10cm以上水がたまることもあったようですが、根気強く市へ働きかけ、排水設備を完備し、快適な環境に変えています。子どもの為、保護者の為という職員の熱意が感じられ、園全体の雰囲気も非常に明るく、風通しのよさが感じられます。

○保育理念に「未来を生きる力を培う」を掲げ、STEAMS保育を行っています。保育の様々な場面で、子どもたちの興味の幅を拡げ、考えたり実験する機会を多く持ち、子どもの主体性を育てています。食育・保育の中での振り返りやフィードバックも計画に盛り込んであり、熱心に取り組んでいます。

○遊び・自然体験やお話を通して、学びや他者への思いやり等の理解を育てる取り組みをしています。アレルギー疾患や慢性疾患等の子どもに対する理解を促す際も、その取り組みが実践されました。

○理念に基づいた目標、計画がしっかりと立案され、その方針や計画内容、保育内容が保護者にもきちんと伝わり、利用者アンケートでは、職員が個々の子どもの良いところを見つめ、個性を認めていると実感している保護者がとても多く、また、保育中の発熱や病気、事故等に対して責任をもって適切に対応していると保護者から高い評価を得ています。子どもの保育状況の伝達・食事の提供を含め、個々の心身の状況に応じた保育実践が見える化し、情報を共有化することにより、保護者が安心して子どもを預けられ、高い評価につながっています。

○職員の労働環境について、園長・主任が保育に入り、各職員が記録や自分の業務を行う時間を作る等、時間外を発生させない工夫がされています。職員は上司に厚い信頼を寄せ、報告・連絡・相談機能ができています。園長がスーパーバイザーとしての役割を遂行し、職員間の連携が図られています。また、新人職員にチューター制度があり、勤務時間内に話し合いの時間を設定する等、新人教育の体制が整えられています。

○保護者負担の軽減について、多忙・電車通勤している保護者が多いことを考慮し、紙おむつのサブスク等、持参荷物を少なくする配慮がされ、保護者から負担が軽減していると評価されています。ICT化により保護者にわかりやすい情報発信がされています。

◇特にコメントを要する点

○園長をはじめ、職員のチームワークが良く、情報の共有や周知が徹底されています。開園10年目ということもあり若い職員が多く、活気にあふれている反面、経験年数の浅い職員への指導が不十分なところが課題となっています。

○マニュアル整備・研修、及び、その成果の共有、情報・認識の共有に取り組んでおり、そのツールとして昼礼・日誌、及び、諸記録・会議録等を活用しています。会議録・日誌等は保育実践が蓄積された記録であり、人材育成の観点からも重要な記録として位置づけられ、内容や経緯が把握できることで、職員間の認識のずれを防ぎ、時間が経過した後でも保育実践の資料となり得るものです。そのような観点より、今後は更なる記録の充実への取り組みが必要と考えられます。議題項目を明文化し、小見出しをつける等、経過と決定事項を整理して記録することにより見やすくなり、更なる可視化・活用が期待できるものと考えられます。

○不審者対応訓練の定期的な実施、及び、戸外活動時の携帯電話と緊急携帯通報機器(ココセコム)携帯の対策が取られ、安全面への取り組みを行っていますが、アンケートより保護者は不審者に対する備えが十分ではないと考えられているようです。保護者が感じる不安を把握することにより、更なる安心感につなげることが求められています。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

○職員間の風通しのよさと、毎日の昼礼を行うことで情報の共有・周知を徹底してまいりました。今回のアンケートで保護者からの安全面、衛星管理に不安がある事が分かりました。

子どもたちだけでなく保護者の方々も安心・安全な保育園でなければならぬ事を今一度、職員間で話し合い どの様にして徹底できるか考えていきたいと思ひます。

○保護者の方々が保育園(園長、職員)に安心して相談・意見が言える様な環境、体制を作る必要があり、改善していきたい。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり